

第35期長崎県社会教育委員紹介

所属 育児支援ボランティア「させぼっ子・応援たい」

氏名 迎 純子

主な活動

子育て中の母親から「育児についての講演会や講座を受講したくても、小さな子ども連れでは周りに迷惑をかけるので困っている。勉強やサークル活動も頑張りたいのに！」の声を聴き、平成14年にボランティアグループ活動を開始しました。活動の名前は、子育て支援「ママ・ほっと(0歳の会)」といいます。佐世保市の2カ所で開催しており参加料は無料です。市の保健師さんや公立の保育士さん方にも協力をお願いして、毎月情報提供や個別相談もいただいています。

活動に必要な資金は、民間企業の補助金を活用しています。

この会は回数を重ねるごとに参加者が増加していますし、共感することを通してママ自身の自己肯定感や、他者を肯定する意識も育まれてきました。

また、一人暮らしの高齢者が集う「器(うつわ)の会」では、「がんばってるね」「間違っていないよ」「みんなそうなんだよ」という声をかけあう関係づくりができてくると、地域で孤立している高齢者も、それまでうつむいた顔が少しずつ上向き、笑顔を返してくれます。高齢者自身が自分の存在や行動が他者に認められ、肯定されることの大切さ、必要性を強く感じる瞬間であり、私自身が大きな喜びを覚える瞬間でもあります。



子育て支援「ママ・ほっと(0歳の会)」



高齢者の集いの広場「器の会」

社会教育に対する思い

「社会教育とは！」とても難しい響きで、私の日常の活動や動きには、縁遠い言葉だと思っていました。でも自分自身の活動を振り返ってみると、活動そのものを見ると気が付かないけれど、その根底にあって、自分も無意識に活動の中で最も大切にしている部分。「認め合い・安心できる空間を創る」それから子育て支援「ママ・ほっと(0歳の会)」は、私と仲間のサポーター数名と、佐世保市の保健師助産師さんの公の力と補助金を提供してくださっている企業の民の力が、連携・協働して、学習成果を発揮する場として、これからも継続して取り組んでいきたいと思っています。

私は、「社会教育の基盤は他者を認めること・尊重すること」と思っています。「間違ってもいい」「違っていい」「あなたを受け入れる」「違うこと」が当たり前」。まずは、小さな取組・身近な場所からはじめよう！私にできる居心地のよい小さな社会の実現を目指して！